

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102899		
法人名	有限会社ライフサービス宮崎		
事業所名	グループホームこころ音		
所在地	宮崎市大島町野田2074番地1		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成28年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&jisyosyoCd=4570102899-00&PrefCd=45&Version=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしい普通の暮らしができるホーム」を目指している。 ・明るく元気に過ごせるように、週1回の音楽療法と月2回の理学療法を取り入れている。 ・可能な限り、自分で箸を使い、食事を楽しめるようにしている。 ・薬の副作用を軽減し、症状が緩和するように、服薬の調整に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの名称「こころ音」に込められた思いのとおり、利用者のこころの声(音)に全職員が耳や心を傾け、想いの実現に努めている。ホームの理念に「笑顔、ぬくもり愛情ホーム」を掲げ、利用者と職員が笑顔の中でゆったりと暮らしている。移転して数か月であるが、自治会に加入し、地域の催しへの参加を積極的に計画して、地域との交流に取り組んでいる。今一番必要なサービス利用等を見極め、対応し、理学療法、音楽療法を取り入れ、また、他の取組も積極的に検討している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を職員全員で具体化し、介護理念を3つ作っている。日々の支援として浸透するように、週1回、朝の申し送り後に勤務者で唱和し、共有と実践につなげている。	全職員で共有し、日々の支援につながるよう、理念に、より具体的な表現を記し、提示し、唱和して浸透に努めている。代表者と管理者は、職員が笑顔で支援できるよう気配りをし、声かけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年1月の移転と同時に、自治会に加入し活動を開始している。回覧板でのやり取りや日常的な挨拶等のお付き合いはできているが、地域活動への参加・交流には至っていない。	移転して数か月だが、自治会に加入して一人として活動している。地域の運動会、祭り、子供会のラジオ体操の参加を計画している。隣の畑の収穫物をもらったりと、近所付き合いも始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学は随時受け入れ、事業所での日頃の生活の様子を見ていただいている。悩み事や相談に応じ、より良い方向性を見出せるよう助言をしている。また、認知症の人を理解していただけるよう、自治会役員の方を行事にお誘いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の現況を報告している。通信の写真を見ていただきながら、活動内容を説明している。質問には丁寧な説明を心がけ、意見や提案を取り入れるようにしている。	時には行事や活動に参加してもらい、ホームの現況を報告している。委員から要望や意見がよくでており、災害時の連絡網に近隣住民を入れたり、学生の体験学習や幼稚園児の訪問等の計画につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点があれば、各担当者に連絡を取り、指導を頂いている。また、電話や訪問等の要請があれば調整をし、スムーズかつ有効な協力関係ができています。	代表者と管理者は、積極的に市との関係を築き、窓口に出向いたり、電話やメールで相談し、指導を受けている。市主催の研修に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の前が道路に面しているため、現状として施錠を必要とする時間帯がある。安全第一に、職員全員で工夫をし、抑圧感のない暮らしの実現に取り組んでいる。	外部研修やホームの勉強会で、身体拘束をしないケアをテーマに研修を実施している。玄関施錠は、見守りや所在の確認等の対応をすることで、施錠をしないで利用者が抑圧感を感じない暮らしができるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、施設内で勉強会をし、虐待防止についての認識を深める努力をしている。また、職員の業務に対する不満や要望にも耳を傾け、職場でのストレスを軽減できるよう環境づくりに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用している利用者があるので、職員がその必要性和内容を理解できるように、現行に沿って、随時、情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等にわかり易く説明をしている。不安や疑問点がないかを確認し、十分な理解と納得を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やプランの見直し、また、運営推進会議において意見や要望を聞き、サービスや運営に反映させている。外部者へ表出できる環境は、現在整っていない。	家族会がある。行事の折に家族同士が話せる場を設けたり、運営推進会議に家族が参加しており、意見や要望を表せる機会がある。出された意見等に早急に取り組み、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員とのコミュニケーションを欠かさないようにし、申し送りや職員会議において、意見交換をしやすい雰囲気作りに努めている。現場での意見や提案を重視し、生かすことで、仕事への意欲や質の向上につながるように努めている。	代表者と管理者は、職員会議や日々の申し送りの際に、職員の意見や提案をよく聞いている。ホームにあたたかな雰囲気があり、職員が意見や要望を言いやすい環境を整えている。出された提案は、代表者を中心に早急に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	手当一覧表を作成し、職員個々の努力・実績で評価できる水準を設け、やりがいの持てる環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な職場内での研修や個別での定例会議を設けている。また、外部での研修等にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での交流会・講習会には積極的に参加し、講習内容を取り入れ、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを汲みながら、不安や要望をゆったりと聴くようにしている。その思いを職員間で共有し、安心と信頼につながるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、背景や心境を受け止める努力をしている。本人と主介護人、また、家族同士の関係性を理解し、家族支援の輪につながるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態や家族の意向を踏まえ、最も必要な支援を見極めるようにしている。サービスについてはできる限り、柔軟に対応できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活動作においては、できることをしていただき、作業においても、互いに知恵や工夫を出し合いながら協働で取り組むようにしている。些細な出来事や話題を共有し、一喜一憂の日々を積むことで、関係性も深まってきている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の度に現況を伝え、情報交換をしている。問題が生じた時は共に知恵を出し合い、より良い方向性を見出せるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出が可能な利用者については家族が付き添い、馴染みの美容室や行きつけの飲食店に出かけている。信仰のある方に、月2回、神父様が面会に来られ、関係が続いている。	知人等が定期的に訪れる利用者が複数おり、その関係が継続できるよう声かけ、対応をしている。家族の協力も得て、なじみの美容室や外食、電話での交流など、一人ひとりに応じた支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立せず、落ち着いて過ごせる座席配置を職員全員で考えている。一人ひとりが役割を持ち、お互いを認め合い、助け合えるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸事情で他の施設等へ移動される際は、移転先へ詳しく情報を提供し、環境変化へのダメージが少しでも減るように支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思伝達が可能な方は聴き取りをしている。困難な方においては、日常の会話の中での発言や表情・生活の様子を観察し、職員からの情報を基に検討している。	利用者と職員が一对一でゆったりと過ごす時間を大事にして、寄り添うケアで思いや意向の把握に努めている。特に入浴時が良い機会となっており、真意を汲み取り、職員間で共有して、支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人や過去に利用した施設関係者から聴き取りをしているが、新しい利用者においては今後の課題として、センター方式や独自のシートを活用して取り組んでいきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況、心身の状態は、申し送り情報交換をし、共有をしている。また、職員の気づきや新たに場面設定をして、有する力の発見につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、知人、職員、主治医、訪問看護師、音楽療法士、理学療法士、マッサージの方、ボランティアの方などから意見やアイデアを聴いている。現状に即したサービスを提供し、効果を実感できる計画書の作成を目指している。	日々の記録を基に職員が介護計画に基づいたサービス評価表を作成し、全職員が計画に沿った支援ができるよう取り組んでいる。毎月モニタリングを実施し、利用者一人ひとりの現状に即した支援ができるよう、介護計画を作成(見直し)している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別生活記録・介護サービス実施評価表の記録を基に、情報を共有し、日々のケアやプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じ、優先課題を設定し、サービス提供に取り組んでいる。また、サービスがマンネリ化しないよう心掛けている。		

宮崎県宮崎市 グループホームこころ音

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽ボランティアの方や地域の美容院の方の訪問カット、飲食店やスーパー、コンビニ、交番等の力を借りて、安全で豊かな暮らしを支援している。今後も地域資源の活用を広げていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月1回の合同往診と個別往診で、各自、月2回は馴染みの医師から継続的に医療を受けている。Drの指示があれば、家族と連携をとり、専門の病院を受診したり、訪問診療を受けられるように支援をしている。	協力医やかかりつけ医の往診が定期的であり、訪問看護師も週1回健康管理のため来訪しており、適切な医療が受けられる体制を整えている。家族が付き添い通院する際は、文書や口頭でホームの状況を伝え、また、必要に応じて同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を取っており、毎週水曜日、訪問看護による健康管理を受けている。異常時は、24時間オンコールで早期に適切な看護や医療を受けることができている。また、非常勤の看護師の協働支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関への情報提供やケアについてカンファレンスを行っている。入院中も面会や家族・病院と連携をし、早期退院に向け、積極的な支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針として看取りを行うが、事業所は主治医の指示により対応することを家族に説明している。	ホームの方針として看取りを行うことを決め、利用者や家族に伝えているが、具体的な方針の定め、医療機関と連携についての話し合い、職員との共有の取組は未だなされていない。	家族、医療関係者、職員との話し合いの機会を設け、方針の統一を図り、体制を整えること、利用者の状況に応じ、随時意向を確認するなど、また、それを文書化する取組を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入れ替わりもあり、全職員の訓練に至っていない。今後、マニュアルの周知と定期的な勉強会を実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。災害時の必要物品も備蓄している。事業所の移転後は、地域との協力体制が整備できていないので、今後、取り組んでいきたい。	年2回の防災訓練を実施しており、備蓄も用意している。移転して数か月のため、地域の協力体制が未だなされていない。	地域との協力を築くために、訓練への参加を依頼するなど、積極的に取り組むこと、また、種々の災害、状況を想定した訓練を利用者も一緒に繰り返し実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対人援助において、尊厳を守ることは基本であり、言葉遣いや声掛けは重要な要素であることを理解し、実践できるように、定期的に勉強会で振り返りをしている。	年長者として敬意を払い、丁寧な言葉づかいに気をつけており、実践している。代表者と管理者は、接遇について勉強会を繰り返し実施し、自己決定しやすい声かけになるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、その人に合ったコミュニケーション手段を考えながら、思いや願いを察知する努力をしている。常に「どうしたいのか?」という疑問符を掲げ、自己決定につなげるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活のリズムを大切に、その都度問いかけをしながら、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	顔の手入れやお化粧をする習慣がある利用者には、家族が必要品を用意している。訪問美容を利用し、自分の好きな髪型にして貰ったり、白髪染めをしておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会ではバラ寿司とお吸い物を利用者と一緒に作っている。日常でも、下ごしらえや食器洗い・お盆拭き等を協働するように努めている。梅干漬けや干し柿作りは、恒例の季節行事として、一緒に楽しんでいる。	職員は催事の時などに、利用者に腕をふるってもらえるメニューにして、利用者が中心になって料理する場を設けている。利用者も一緒に作った干し柿や庭の畑の収穫物、近所からの差し入れ等が常に食卓にあがり、楽しく食事できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに適した食事や水分の摂取ができるよう、介助法や食器を工夫している。体重の増減を把握し、健康維持ができるよう摂取量の調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥を予防し、美味しく食事が取れるよう、本人の力を見極め、一人ひとりに応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所や排泄後の処理が分からない利用者には、失敗による不安や混乱を軽減できるように見守りし、トイレでの排泄を誘導している。	一人ひとりの排せつパターンを把握して、できるだけ、いつまでもトイレで排せつができるよう、さりげない声かけや誘導で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の申し送りで、排便状況を職員全員で把握し、必要な方はその日のうちに対処するようにしている。食生活では便通の良い食材を使い、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭用タイプの浴槽と個浴型介護浴槽を使い分け、車椅子の方でも入浴をゆっくりと楽しめるようにしている。汚染時には適宜対応をし、清潔に過ごせるように支援している。	家庭用と介護浴槽があり、一人ひとりの状況に応じ利用している。くつろいで入浴できるよう十分な時間をとり、職員が付き添い、会話を楽しみながら入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や状況、又は要望に応じて、気兼ねなく休息できるようにしている。室温や照明、音にも配慮し、ぐっすり眠れる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬や変更内容を、全員で共有できるように、日誌や申し送りで確認をしている。誤薬を防ぐため、ダブルチェックを行い、服薬時に最終確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に適した役割や日課を提供し、続けることで張りや自信につながるように努めている。また、ハーモニカやピアノ演奏をしたり、得意な料理を調理してみんなで味わうなど、楽しみや気分転換となる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所の神社に参拝したり、買い物やドライブ、外食に出かけている。家族間の交流も兼ね、年1回は全員参加でのバス遠足を楽しむようにしている。	散歩の折に、神社に参拝したりしている。一人ひとりの希望に沿い、衣料品や食品の買い物、外食に出掛けている。親族の葬儀等への出席も、利用者の意向を把握し、家族の協力が得られるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できなかつたり、利用者間にトラブルが発生するため、現状として、お金の管理は家族や事業所で行っている。希望に応じて欲しい物を一緒に買いに行ったり、家族や事業所の支援で購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ、家族と電話で会話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの移動手段や歩行力を把握し、安全な動線を確保している。音・光・室温は、利用者の様子や要望に応じ、随時調節をしている。日付や季節の装飾品、観葉植物などで、家庭的な雰囲気になっている。	居間の窓辺に花を付けたつるがあり、台所の軒先に干し柿をつるし、ピアノの上に利用者が描いた絵画を飾るなど、家庭的な雰囲気となるよう工夫している。広い廊下にソファを置き、利用者がくつろげる空間を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事は、心身ともに落ち着いてゆったりと食べていただけるように、利用者間の関係性を考慮し、座っていただいている。施設内の5箇所にソファを配置し、何時でも好きな場所で自由にくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品を持参していただき、安全に心地よく過ごせるよう工夫をしている。	利用者の使い慣れた物や好みの物、なじみの物の持ち込みを家族に依頼し、居心地の良い居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札や家族との写真を掲示し、自分の部屋がわかりやすいようにしている。浴室、トイレ等には、標示や案内板を見やすい位置に設置している。		